

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2024年度 第4号

事務局: 〒582-0026 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 多文化教育系 篠崎文哉研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2025年3月31日発行



巻頭言

2024年度の学会活動

関西英語教育学会副会長 今井 裕之 (関西大学)

今年度の関西英語教育学会の研究活動を振り返ってみましょう。第30回研究大会は6月8, 9日の2日間にわたって、龍谷大学大宮キャンパスで開催されました。両日にわたって、講演2件、ワークショップ4件、フォーラム1件、研究発表15件、さらに企業プレゼンなど多彩な研究活動の発表と交流の時間となりました。対面の学会は会場準備も参加者の移動も大変ですが、時間と空間の両方を共有する手間をかけることで、お互いのコミュニケーションの総量が圧倒的に違いますし、対話の深まりも一段と増したように思います。参加した後には「やはり対面は対面でいいな」と思うものです。

一方で、オンラインで行うセミナーも、その時間効率の高さ、運営負担の低さ、遠方からでも参加可能な点などメリットが大きく、今年度のKELESセミナー第60~62回の3回のうち、第60, 61回はオンラインで開催しました。10月6日に開催された、第60回KELESセミナー「ICT—そのごくありふれた日常の中で、英語教育にどう活用するか」では、篠原弘樹先生(松蔭中高)、山村潮音先生(高松中央高)が、お二人それぞれの学校での授業実践をICTツールの活用の視点を踏まえて語っていただきました。授業も含めて他者との協働においてツールの活用がいかに重要かを考える有意義な機会でした。

第61回は「教師の実践知」がテーマでした。藤田卓郎先生(福井高専)、吉田達弘先生(兵庫教育大)の話題提供に対して、柳瀬陽介先生(京都大)が指定討論者として加わる構成で行われました。「実践研究」の今後を考える機会となりました。

第62回は、龍谷大学梅田キャンパスで参集型で泉恵美子先生(関西学院大)と加賀田哲也先生(大阪教育大)のお二人を迎えて行われました。「デジタル時代の英語授業」をテーマにしながも、学校英語教育と教員養成の現場で長年研究を重ねられたお二人からは、そんな枠を超えて溢れる英語教育の果たす意義、将来への展望が語られ、参集型ならではの一体感ある年末のひと時となりました。

年が明けて2025年2月9日には、第28回卒論・修論研究発表セミナー(卒修セミナー)が、オンライン形式で開催されました。13件の発表申し込みがあり、Zoomを介して発表者、コメントーターと共に参加者の間で、**thought provoking**な、深まりのある議論がなされました。どの論文の研究課題も、一年以上の長い時間をかけて編まれたもので、発表者各々の研究背景や独自性が感じられる発表でしたし、さらにコーディネーター役のベテラン研究者が共感・共鳴するコメントを重ねる、卒修セミナーらしい未来志向の研究発表会となりました。恒例の「スペシャル・トーク」は、田地野彰先生(名古屋外国語大)が「英語教育の意味づけ論」を、「意味順」の意義と今後をキーに、聴衆一人ひとりに語りかけるようにお話しいただきました(突然の体調不良だったにもかかわらず!)

30年の節目だった今年度もKELESらしい学会活動が行えたと思います。2025年度は31年目。30年前から革新的な学会活動を企画し、それを伝統に高めてきた横川博一会長のもとさらに「新しい(そして楽しい)伝統を創る」活動は続きます。皆様のご参加を引き続きお願いします。

報告 第28回卒論・修論研究発表セミナー

2025年2月9日 オンライン開催

今年度最後のセミナーをオンラインで開催しました。卒業論文・修士論文を完成させた学生さんと、将来の英語教育をともに考える語らいの場です。研究発表は卒業論文12本、修士論文1本がありました。発表者への大変貴重なご助言をいただきましたコメンテーターの名部井敏代先生（関西大学）、門田修平先生（関西学院大学）、泉恵美子先生（関西学院大学）、中田葉月先生（甲南女子大学）、橋本健一先生（大阪教育大学）、横川博一先生（神戸大学）には、心から御礼申し上げます。また、スペシャル・トークの講師に田地野彰先生（名古屋外国語大学教授・京都大学名誉教授）をお迎えして、「英語教育の意味づけ論 — 「意味順」 を一例として」というタイトルで、ご講演いただきました。本年度を締めくくるのにふさわしいご発表・ご講演、そしてお申し込み・ご参加いただきました115名の皆様に御礼申し上げます。

<スペシャル・トーク>

「英語教育の意味づけ論 — 「意味順」 を一例として」

講師：田地野 彰先生

（名古屋外国語大学教授・京都大学名誉教授）

本講演は、英語教育という文脈における様々な問題について、ソフトシステム方法論を用いて改善・解決を検討するという内容であった。ソフトシステム方法論では、関係者の視点を重視して、問題点に関しての異なる解釈や価値観を統合するプロセスを指す「意味づけ」が用いられる。英語教育という文脈において「意味づけ」を行う際に、「意味順」を通して、問題点を検討していくという内容であった。

「意味順」とは、英語の語順を「意味のまとまり」として提示する方法である。「だれが」「する（です）」「だれ・なに」「どこ」「いつ」という5つのボックスに英単語やフレーズを当てはめるだけで、意味の通じる英文を作ることができる学習方法である。

最初に、田地野先生は「意味順」を英語指導で用いるメリットを挙げられた。一つ目は、SVOCなどの文法用語を使用しなくても語順を伝えることが

できることである。2つ目は、意味順ボックスを用いることで、文構造を可視化することができるということである。そして、3つ目は「意味順」を通して、英文法の鳥瞰図を示すことができるということである。それぞれの文法項目を別々のものと捉えることなく、1つのものとして説明ができる。例えば、5文型も「意味順」で1つにまとめて説明することができる。

加えて、「意味順」は学習者が文法上の誤りをするという前提のもとに、日本人が誤りやすく、コミュニケーションにおいて大きな問題につながるミスを解消するためにも効果的である。例えば、英語は固定語順言語であり、“The boy ate the apple.”と“The apple ate the boy.”では、意味が大きく変わってしまう。また、「私はコーヒーだ」という日本語をそのまま英語にした、“I am a coffee. / I am a cup of coffee.”などの英文では、伝えたい内容が伝わらない。日本語の「意味のまとまり」を当てはめた「意味順」では、これらのミスも減らすことが可能であろう。

そして、田地野先生はレストランのメニューを例にして、「意味順」は英文を作る分かりやすいシステムであると説明された。ランチメニューでは、「前菜・メイン・デザート」のような料理の「たて軸」は固定されており、「よこ軸」になるメインの「お肉」や「魚」、デザート「コーヒー」や「紅茶」などのそれぞれの料理は入れ替わるものである。「意味順」では、「たて軸」は「だれが」「する（なる）」などの固定されたものであり、「よこ軸」には伝えたい意味にあう英単語を当てはめるだけで英文が完成する。

ご講演の中で、田地野先生は『「意味順」でできないこと（問題点）があったら教えてほしい』とおっしゃっていた。この様子からも、田地野先生が現場の教師・学習者目線で、英語力向上のためにご尽力されている想いが伝わってくる。

最後には、実際に提示された英文を「意味順」ボックスに入れる「演習」をご準備されて、参加者と一緒に「意味順」を体験することができた。

報告者：萩原 亘祐（奈良県立国際中学校・高等学校）

＜発表者体験記＞

「他動詞と自動詞の意味的差異—より良い学校文法に向けた言語学的アプローチ—」

加藤 翔太（京都外国語大学）

はじめに、このような素敵な機会を頂き、自身の研究を発表することができたこと、また多くの方々にご清聴頂き、有意義で建設的なコメントや質問を頂いたことに心より感謝申し上げます。

本発表では、自動詞と他動詞の意味的差異に着目し、よりよい学校文法の実現に向けた研究の発表を行った。私自身高校生の頃から英語学習を行う上で、文法事項の丸暗記に頼らざるを得ない場面が多くあった。しかし、大学で生成文法や認知言語学などの英語学関連の授業を受ける過程で、英文法に関するさまざまな理論を学び、これらを学校文法にも応用することでよりよいものにすることができると考えたことが、この研究の動機および目的であった。

発表後の質疑応答の時間では、将来的に教育現場で理論を応用する際、当該文法事項の提示にあたって適切な文脈を提示することの重要性を再認識させていただいた。また、形式と意味の違いによるニュアンスの差に基づいた、意味構造と実際の表現を導入する際の留意点もご指摘をいただき、今後研究を進展させる上で多くの示唆を得ることができた。今後は大学院生として、様々な言語現象や考え方に触れながら、積極的に第二言語習得研究を進めていきたい。

「日本人大学生の物語文読解：時空間と因果関係の理解を促す発問に着目して」

田中 友貴（京都教育大学）

私は、物語文読解の大局的な読みを検討するにあたって、実験ではリーディング素材である物語の時空間と因果関係に着目させる発問を実験参加者の一部に与え、参加者らの読解過程の変容や読解の成否を測る設問への記述回答に現れた特徴を分析した卒業論文を発表した。

発表後の質疑応答を通して、実験の手法に改善の余地を見出すご指摘や、リーディングだけにとどまらず他の技能に関連する活動への指導の展開に関するご助言を頂いた。セミナーを通して初めてお会いした方々から新鮮な観点よりフィードバックを得ら

れたことで、研究に対する私の視野がいっそう広がった。

最後に、本セミナーでお世話になった方々に向けて、この場をお借りして深く感謝を申し上げたい。皆様のセミナー開催へのご尽力のおかげで、私は卒業論文を大学の垣根を越えて発表させていただき、温かく有意義なご意見をたくさん頂戴する機会を得た。本セミナーは私にとって、自身が取り組んできた研究を対外的に発表する初めての場であり、発表準備をする過程や発表そのものを通して私自身も大いに成長することができた。本セミナーでの経験を糧にして、今後の大学院での研究や英語科教員としての研鑽と修養に励んでいきたい。

「LOTE 学習動機は英語学習動機につながるのか マルチリンガル理想自己」

伊藤 妃奈乃（広島修道大学大学院）

はじめに、このような貴重な機会を設けてくださったことに、心より感謝を申し上げます。発表の際には、先生方から多くのコメント及び質問をいただくことができ、改めて自分自身の研究をより深く見つめることができた。また、他の方々の発表やご講演を通し、新たな知見を得ることができ、非常に有益な学びの時間となった。

私は、英語学習動機づけと英語以外の言語（Languages other than English : 以下、LOTE）学習動機づけの関係性について考察した事例研究に関して発表を行った。本研究では、英語学習に対して苦手意識を持っており、動機減退している一方で、LOTE 学習においては積極的な学習を継続しており、高い動機づけを持つ学習者を対象にインタビュー調査を行った。結果としては、2名の参加者がLOTE 学習経験を通して、「マルチリンガル理想自己」を発達させ、日常的に自主的な英語学習を行うまでに英語学習動機づけを高めたことが明らかになった。

私は春から教員として英語教育に関わっていくことになるが、本研究及び今回のセミナーを通して得られた知見を活かしながら、今後も常に学び、成長し続ける教員になりたいという意欲を高めることができた。

学会事務局からのお知らせ

関西英語教育学会 第31回研究大会のお知らせ

日 程：2025年6月7日（土）・8日（日）

会 場：同志社大学 今出川キャンパス（対面開催）
〒602-8580 京都市上京区今出川通り烏丸東入

アクセス：同志社大学ウェブサイト参照
<https://www.doshisha.ac.jp/information/access/index.html>

参加費（予定）：

会員 無料

非会員（一般） 2,000円

非会員（学部学生・大学院生） 1,000円

*学生証をご提示ください。提示がない場合には一般参加費となります。

プログラム：講演・ワークショップなどを鋭意企画中です。プログラム等詳細が決まり次第、随時特設ウェブサイト等でお知らせいたします。

発表募集／Call for Presentation：

研究発表、公募ワークショップ、公募フォーラムを募集します。発表申込締切は5月11日（日）です。詳細は別途送信するご案内および特設ウェブサイトをご覧ください。

研究大会特設ウェブサイト：

<https://sites.google.com/view/keles-31st-annual-conference?usp=sharing>



ニューズレターは、KELESのウェブサイト（下記リンク）にも掲載しております。

<http://www.keles.jp/activity/newsletter/>

全国英語教育学会 第50回記念埼玉研究大会

日 程：2025年8月9日（土）・10日（日）

会 場：獨協大学 <https://www.dokkyo.ac.jp>
〒340-0042 埼玉県草加市学園町1番1号

▶詳しいご案内は、追って情報発信いたします。

学会費納入のお願い

新年度を迎えるにあたり、2025年度学会費納入をお願いいたします。詳しくは、別添のご案内をご覧ください。

お問い合わせについて

・学会費、入・退会

会計担当幹事 鳴海智之（兵庫教育大学）
keles.treasurer@gmail.com

・学会誌『英語教育研究』（SELT）

SELT 担当幹事 濱田真由（神戸大学）
masaba@cc.kyoto-su.ac.jp

・会員情報の変更、研究大会、各種セミナーなど 学会全般

[事務局 お問い合わせフォーム](#)

◆会員情報の更新は下記フォームで！

Newsletter および学会情報は、KELES ウェブサイトへの掲載と会員の皆様への一斉メール配信で行っております。

みなさまに確実に情報をお届けできるよう、メールアドレスの更新・登録をお願いします。

会員情報（会員種別・住所・所属・電話番号・メールアドレスなど）の変更・更新は、下記フォームにてお願いいたします。

<https://forms.gle/deRoVkiPDa9iMKkr6>